

千葉県の博物館資料レスキュー体制

平成25年3月7日
千葉県立中央博物館

平時の体制

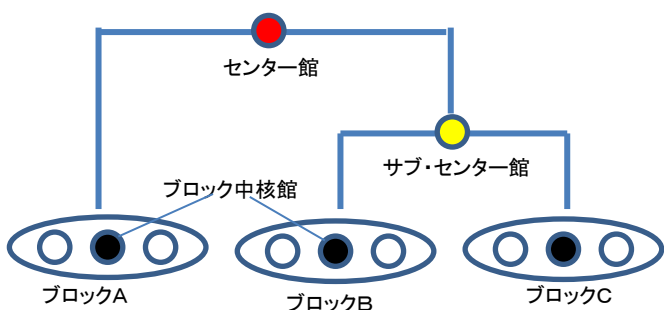
○ブロック化

・県内博物館を地域別にブロック化する。

【ブロック化の基準】

- ・各ブロック内に大・中規模館(ブロック中核館)が存在する。
- ・津波浸水域と高台域など、同一被害を受けにくい場所に立地する館が各ブロック内に混在する。
- ・ブロック中核館を統合するセンター館を設置する。

【課題】ブロックの階層と具体化



○情報の共有化

- ・同一ブロック内に存在する各館は、それぞれの館の収蔵資料・施設・人員等の詳細状況を共有する。
- ・館情報のバックアップを、サブ・センター館及びセンター館で保管する。

- 【課題】
- ・電子化が進んでいない館の資料情報の取り扱い
 - ・保存媒体とバックアップの所在地

○協定締結

有事の際のレスキュー体制について、あらかじめ関係機関等で協定を締結する。

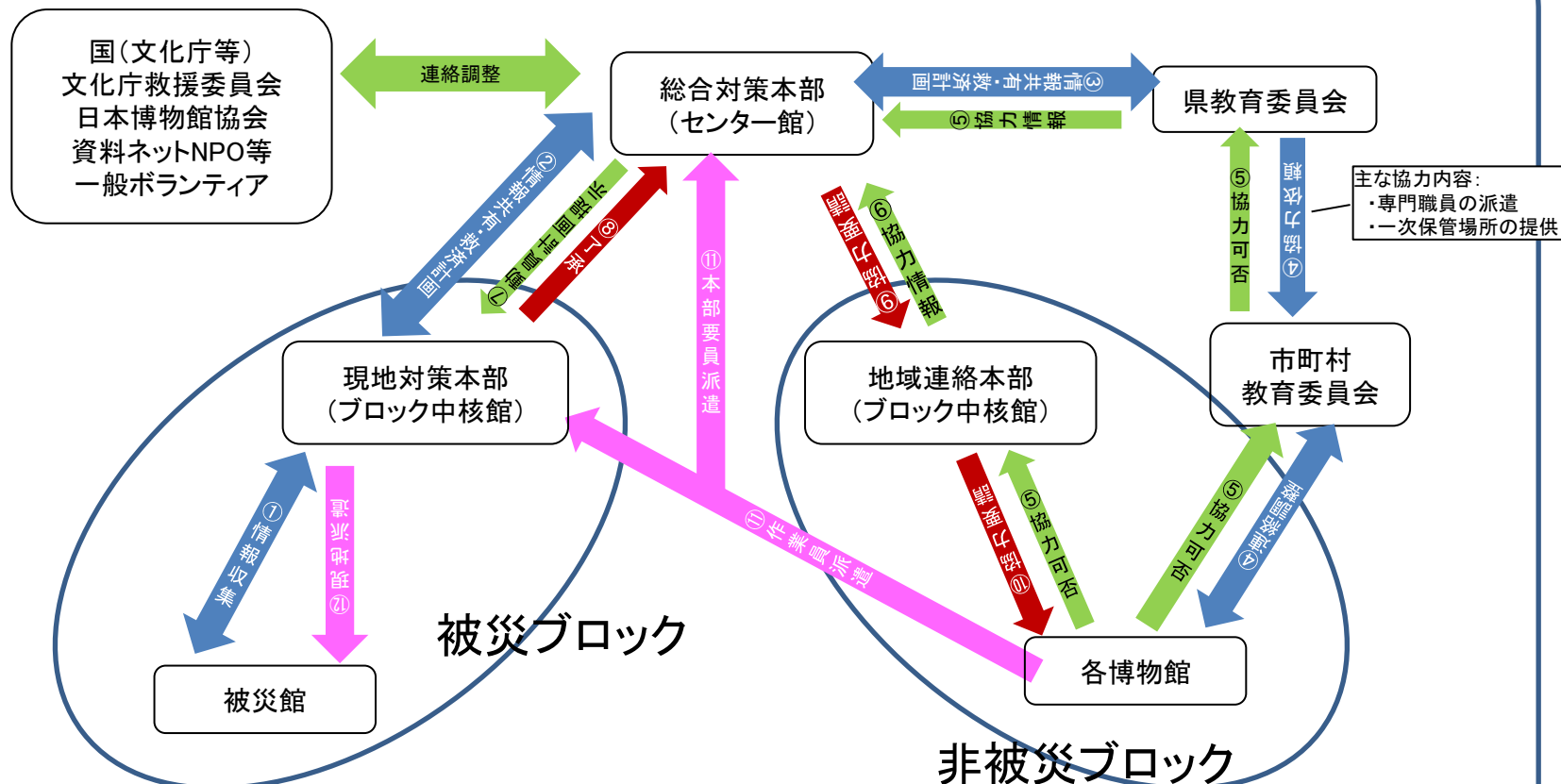
- 【課題】
- ・設置者との協定締結の必要性
 - ・県博協非加盟館の扱い

○県民理解の促進

博物館資料の重要性とその救済の意義について、普及啓発を行う。

有事の体制

○1次レスキュー (情報把握・資料選別・応急処置・一次保管場所への搬出)



1次レスキューにおける課題

- ・職員を出張扱いで派遣することができるか
- ・企画展等を中止・延期にできるか
- ・派遣職員の出張旅費・資料輸送費等の財源確保
- ・一次保管場所の確保

○2次レスキュー (安定化処理)



2次レスキューにおける課題

- ・大型の冷凍庫や凍結乾燥機等を備え、長期間作業場所を提供できる館の確保
- ・長期間処理作業を担える日々雇用またはボランティアの確保